

米・プロ野球独立リーグでアシスタントトレーナーとして働いている、清水広貴さんからメッセージが届いています！！

- ・清水広貴さんのコメント

『この夏、アメリカの独立リーグ American Association に所属する Amarillo Sox というチームで働かせてもらっています。このリーグは、北はカナダから南はメキシコ国境まで、アメリカ全土を縦断するようにチームが配置されています。アメリカはアメリカ南部のテキサスにあり、しかも他チームよりかなり西へ外れているため、遠征のバス移動は 20 時間前後ということも珍しくありません。4 ヶ月間で 100 試合行い、オフは 10 日しかなく、そのオフもほとんど移動で費やされます。MLB 傘下のマイナーリーグと比べてもおそらく世界で一番トラベリングスケジュールがタイトな野球リーグなのではないでしょうか？

チーム内の状況はというと、5 月に開幕して初めの一ヶ月で約 20 人の選手が入れ替わりました。ロースターが 22 人ですのでまるで別のチームになってしまいます。選手と別れる度に寂しさを感じますが、独立リーグという特殊な環境ではそれは仕方のないことなのかもしれません。選手を指導している時間はなく、実績のない選手はたった一試合の結果で解雇されることもあります。また逆に、若くて可能性を認められた選手はメジャーリーグの組織へと移っていくのです。何度も言っていますが、このダイナミズムと野球界の裾野の広さがアメリカ野球における醍醐味であり、

すごさなのだと思います。

チーム自体の成績は、残念ながら南地区で最下位にいます。6月に入ってから勝てない日が続き、一時はチームが崩壊してしまうのではないかと心配しましたが、ある試合後に開いたミーティングでチームの雰囲気はガラッと変わりました。そのミーティングの内容をこの場でお伝えすることはできないのですが、それ以降の成績は8勝1敗と大きく勝ち越しています。

この経験から新しい言葉を覚えました。chemistry(ケミストリー)。直訳すると「化学」とか「化学反応」ですが、そこから派生して人との相性や人々が作りだす雰囲気を指す意味もあるそうです。この'chemistry'が'good'な状態がいかに大事な事か、今回あらためて感じました。この今のchemistryを最後まで維持できるよう、また選手のコンディショニング作りに貢献できるよう、裏方として残り僅かのシーズンも頑張りたいと思います。』

BMIプレイヤーの中でも、選手としてではなくスタッフ、裏方としてアメリカの野球に関わる清水広貴さんは、日本では考えられないスケジュールの中、常に選手のサポートやケアに関わってハードワークを続けています。このように選手以外の可能性も見出していく事が、BMI Inc.の役割でもあります。チャレンジしてみたい方は、気軽にご相談ください！！

